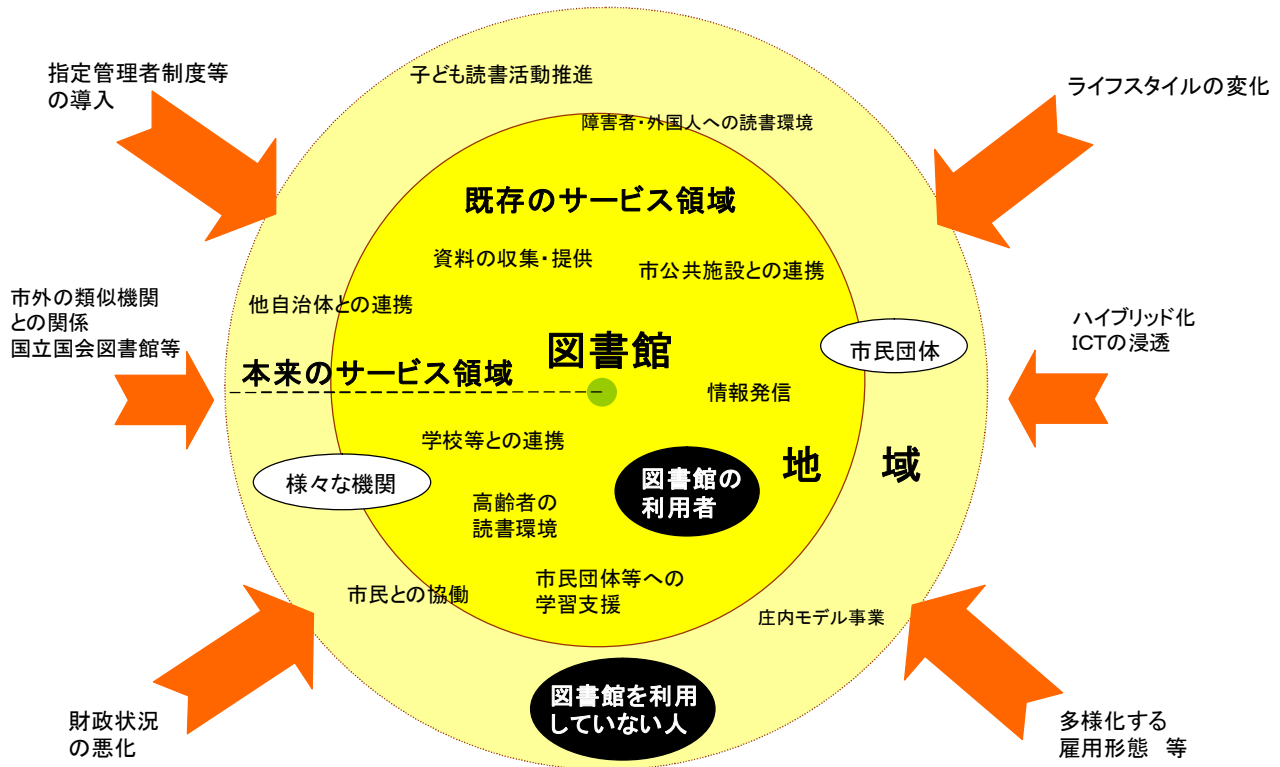


# 課題解決支援サービスの充実について

## 1. 図書館の事業とサービス領域の現状について

豊中市立図書館（以下「図書館」という。）の各事業（図書館評価システム「リーディング項目」中項目）とサービス領域の現状は、次のとおりである。



当市の場合、市の全人口の約46%の人が図書館を利用していない。

本来のサービス領域に対して、どのように取組んでいくべきか。

本来のサービス領域に橋を架ける意味で、課題解決サービスの充実は有効か。

### 図書館を取り巻く状況の変化

- ・ 市財政状況の悪化
- ・ 大阪府立図書館における市場化テスト等による指定管理者制度等の導入の加速の懸念
- ・ ライフスタイルの変化による、図書館の開館時間の延長や祝日開館
- ・ 多様化していく雇用形態 ・ ハイブリッド化、ICT の浸透 等

### 図書館の既存サービスの領域

- ・ 図書館の利用者を対象にして、行なっているサービスの領域

### 本来のサービスの領域

- ・ 図書館利用者のみを対象にするのではなく、市民すべてにサービス提供を行なう領域

図書館を取り巻く状況の変化により、図書館の既存サービスの領域を現行の体制のまま拡大していくことは困難な状況となっている。

## 2. 豊中市の市民のニーズの現状

市では、平成 21 年 3 月に豊中市の教育に関するアンケートを実施し、その結果は次のとおりであった。

### (1) 市民の自主的な学習活動の内容

| 順位 | 自主的な学習活動などの内容                  |
|----|--------------------------------|
| 1  | 体力づくりや健康法、食事・栄養など、健康スポーツに関するもの |
| 2  | 仕事上で必要な知識や技能に関するもの             |
| 3  | 音楽・美術芸術に関するもの                  |
| 4  | パソコンやインターネットなど情報通信技術に関するもの     |
| 5  | 文学、歴史などに関するもの                  |

### (2) 豊中市が学習活動支援に取り組むべきと思うこと

| 順位 | 自主的な学習活動などの内容 |
|----|---------------|
| 1  | 施設・設備の充実      |
| 2  | 学習についての情報提供   |
| 3  | 講座や学習会などの事業   |

ただし、行政支援サービスにつながる職員向けのニーズ調査、ビジネス支援サービスにつながる企業向けのニーズ調査は未実施

## 3. 9 館の図書館と地域課題

市内にある 9 館の図書館の地域性を踏まえた課題解決支援サービスを考えていく必要がある。

手始めとして、現在のレファレンス業務に対する、図書館職員による現状分析を実施する予定である。

## 4. 課題解決支援サービスの取組状況の例（ビジネス支援サービス）

図書館におけるビジネス支援サービスの現状は別紙のとおりである。

## 5. 豊中市職員に対する行政支援サービスの認知度調査の実施

庁内の各課等の所属長に対し、課題解決支援サービスのひとつである「行政支援サービス」の認知度調査を行う。この認知度調査によって、行政支援サービスの見直し及び改善につなげるとともに、これからの図書館と各課等の連携・協力の可能性も探る。調査の概要は別紙のとおりである。

他の自治体への先進事例の調査については、豊中市職員への行政支援サービスの認知度調査の結果に基づき、庁内の各課等その他の機関と協力・連携を検討できるサービスを中心に実施する予定